

レジメン名

RAM+Erlotinib

出典

サイラムザ適正使用ガイド
エルロチニブ適正使用ガイド

実施部署区分

☒入院

☒外来

☐処置

投与速度の減速基準(サイラムザ)

Grade1または2のinfusion reaction※1:
投与速度を50%減速(その後の全ての投与においても減速)

※1 2回以上発現した場合、前投与にアセトアミノフェン、デキサメタゾンの追加が推奨

投与減量の基準(エルロチニブ)

AST	200IU/Lを超える	T-Bil	3.6mg/dLを超える
ALT	225IU/Lを超える		
その他	エルロチニブの減量基準 150mg/日→1段階減量100mg/日→2段階減量50mg/日 Grade3の下痢又はGradeを問わずロベラミドに反応しない下痢、もしくは脱水を引き起こす下痢: Grade1に回復した場合、1段階減量して再開(再度増量しない) Grade3の肝機能検査異常: 3週間以内にGrade1以下に回復した場合、1段階減量して再開		

投与減量の基準(サイラムザ)

1日尿蛋白量※2	2g/日以上3g/日未満 再開する場合は、8mg/kg→6mg/kgに減量
その他	生命を脅かさない可逆性のGrade3の事象(発熱等) 減量なし又は8mg/kg→6mg/kg→5mg/kgに減量 Grade4の発熱・臨床検査値異常 減量なし→8mg/kg→6mg/kg→5mg/kgに減量

※2 UPCRで代替可能

投与中止の基準(エルロチニブ)

AST	120IU/Lを超える	T-Bil	1.8mg/dLを超える
ALT	135IU/Lを超える		
その他	全Gradeの肺関連事象(呼吸困難、咳嗽又は発熱などの新規又は進行性肺症状の急性発症) Grade3の下痢又はGradeを問わずロベラミドに反応しない下痢、もしくは脱水を引き起こす下痢: Grade1に回復した場合、1段階減量して再開(再度増量しない)、発疹		

投与中止の基準(サイラムザ)

AST	100IU/Lを超える	T-Bil	1.2mg/dLを超える
ALT	112.5IU/Lを超える	ANC	1500/mm ³ 未満
T-Bil	1.2mg/dLを超える	PLT	10万/mm ³ 未満
1日尿蛋白量※2	2g/日以上		
その他	Grade3以上のinfusion reaction ネフローゼ症候群 症候性のGrade2又はGrade3以上の高血圧 Grade3以上のその他の有害事象(脱毛を除く)		

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1、d8等)
ラムシルマブ(サイラムザ)	10mg/kg	生食250mL	60分※	day1
エルロチニブ	150mg	1日1回		連日
※ 初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間まで短縮可能				

1日投与順
(経時的にプレ Medikation・ポスト Medikation、
溶解液まで含む)

day1
①ボラミン注5mg+生食100mL (15-30min)
②サイラムザ10mg/kg+生食250mL (60min
※)
インラインフィルターを用いて投与
③生食50mL (2クール目までは経過観察のため
60分、3クール目以降は全開)

<内服>
連日
エルロチニブ150mg 1錠 食事の1時間以上
前または食後2時間以降 (空腹時)